



令和5年度 岡崎市子育て支援事業 関連報告書

2024年2月16日（金）NPO法人ファザーリング・ジャパン 杉山錠士

【事業概要】

▶ 背景：

令和4年度に実施した「Urban Innovation OKAZAKI」を通じた岡崎市の子育て環境に関する協働事業の実証実験を経て、岡崎市とNPO法人ファザーリング・ジャパンが令和5年度に事業委託を受けて、岡崎市の子育て環境、及び現役子育て世代を盛り上げる施策を展開いたしました。

▶ 目的：岡崎市の子育てを盛り上げること ⇒令和5年度は特に「男性の家事育児参画促進」に主眼をおいて事業を計画・実行しました。

▶ 主な実施内容の全体像

- ①主に岡崎市で子育て中のパパを対象に「おかざきパパマイスター」を養成する連続講座の実施、及び参加者コミュニティ運営
- ②出産前、プレパパの段階からの家事・育児参画を啓発するため「パパって最高！～岡崎市版父子手帳～」を制作
- ③岡崎市の子育て世帯を対象としたアンケートの実施
- ④NPO法人ファザーリング・ジャパンのオウンドメディア「パパしるべ」にて取組を記事化して公開。
- ⑤市民参加型の子育てイベント「おかざきこそだて会議2023」の実施

【事業①おかざきパパマイスター養成講座関連】

【事業概要】

- ▶ 目的：講座で学んだ知識を活かして、市内で行われるイベントのサポートをしたり、パパ同士で一緒に遊んだり、学んだり繋がったり。子育ての悩みや楽しさを共有しながら、岡崎市のパパを盛り上げ、パパもママもみんなで子育てを楽しめる環境づくりを目指す活動をする「おかざきパパマイスター」を養成すること
- ▶ 日時 第1回 2023年8月19日（土）14:00~16:00
子育てを協力して楽しむ方法 ～夫婦パートナーシップとチームわが家の考え方～
講師：林田 香織 氏（ワンダライフル代表・NPO法人ファザーリング・ジャパン理事）
- 第2回 2023年9月2日（土）14:00~16:00
パパが育児を100倍楽しむ方法 ～パパが子育てするために必要な心構え～
講師：小崎 恭弘 氏（大阪教育大学教育学部教授・大阪教育大学附属天王寺小学校長・NPO法人ファザーリング・ジャパン顧問）
- 第3回 2023年10月14日（土）14:00~16:00
パパが子どもとめっちゃ楽しく遊ぶ方法 ～保育芸人オスズメの実践的コミュニケーション術～
講師：ポリスじろう 氏（お笑い芸人／SMA所属、コンビ名「ツインクル」）
- 第4回 2023年12月16日（土）10:00~12:00 ※おかざきパパマイスター認定式
家族の自己肯定感をグッと高める子育て方法 ～ハッピーな未来を描くために必要なこと～
講師：杉山 錠士 氏（パパ向け子育て情報サイト「パパしるべ」編集長・NPO法人ファザーリング・ジャパン会員・アドラー心理学ELMリーダー）
- ▶ 実施場所 図書館交流プラザ りぶら （岡崎市康生通西4丁目71番地）
- ▶ 協力 りぶらっこ★ファミリー めりーさんのおうち 産後ケアマイル（いずれも岡崎市内で活動する子育て支援団体）



【事業①おかざきパパマイスター養成講座関連】

【実施報告】

▶ 募集定員を大幅に上回る参加者数！

当初の募集定員が連続受講20名、各回単独受講20名でしたが、募集開始から希望者が殺到！連続受講は定員の2倍を超える41名、単独受講者や連続受講者のパートナーも含め、各回60名を超える現役子育て世代の男女から申込みがありました。

■参加者数

第1回：男性46名（連続39名 単独7名）	女性18名	企業5名
第2回：男性40名（連続38名 単独2名）	女性12名	
第3回：男性34名（連続31名 単独3名）	女性7名	
第4回：男性31名（連続30名 単独1名）	女性7名	

▶ 「おかざきこそだて会議2023」で講座受講生が活躍！

11月18日（土）に行われた「おかざきこそだて会議2023」では受講者有志によって企画運営された「パパのダンボールパーク」やステージでの「餅投げ（お菓子）」などで来場した親子に楽しい時間を提供しました。

▶ 受講生によるLINEグループで活発な情報交換が実現！

連続受講生はLINEでグループを作成し、講座の情報はもちろんのこと、岡崎市内や近隣の子育てイベントに関する情報交換などを行っています。

▶ 岡崎市版父子手帳に「先輩パパ」の立場で参画！

今年度制作した「パパって最高！岡崎市版父子手帳」の中で受講者有志より先輩パパからのメッセージを届けてもらいました。

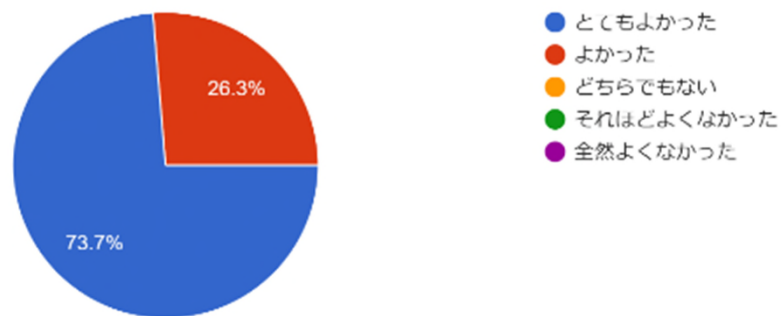


【事業①おかざきパパマイスター養成講座関連】

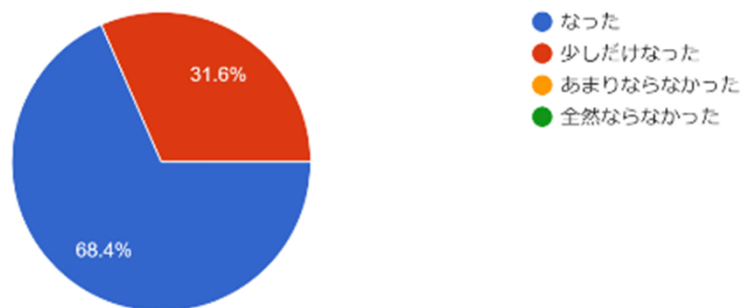
【実施後アンケート】

▶ 講座満足度100%！

Q.講座を受けてよかったですか？

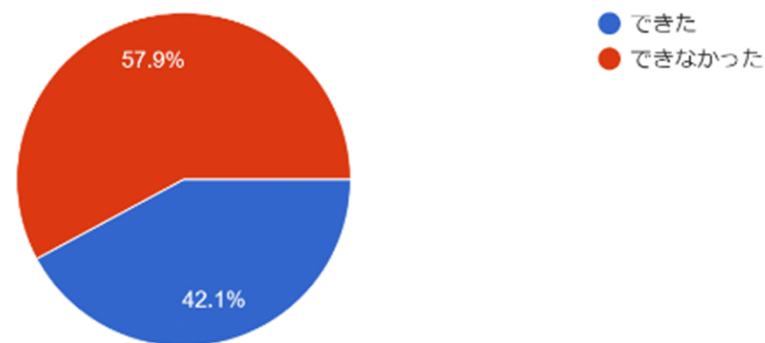


Q.講座を受講してこれまでより家事・育児に積極的に取り組むようになりましたか？



▶ パパ同士の交流をさらに深めるための施策は課題

Q.講座を通じてパパ友はできましたか？



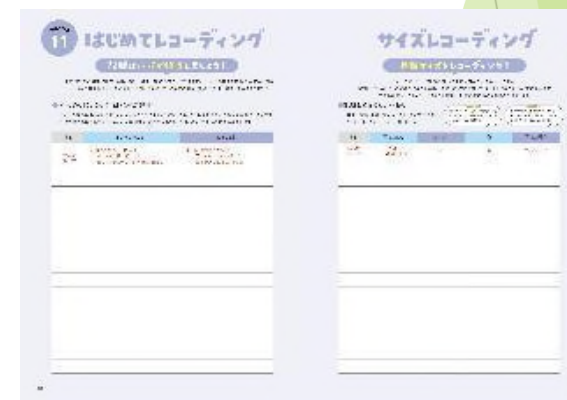
Q. どうしたらもっとパパ友ができると思いますか？

- 第1位 講座以外で集まる機会（懇親会や交流会など）を設ける
- 第2位 パパのグループトーク・コミュニケーションの時間を長く設ける
- 第3位 個人の性格（積極性など）によるため、パパ友を作るのは難しい
- 第4位 講座の回数を増やす

【事業②岡崎市版父子手帳制作】

【事業概要】

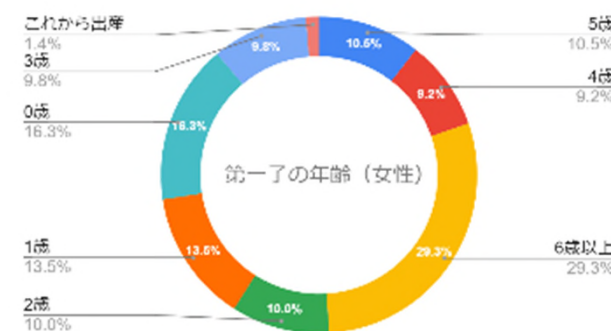
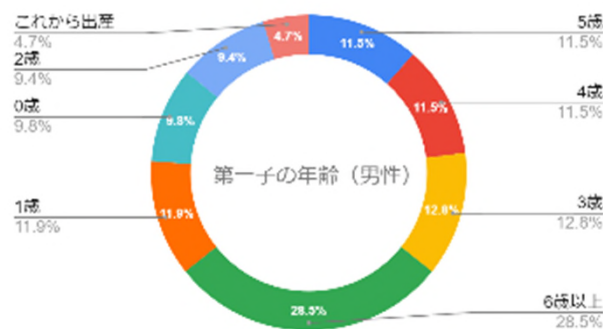
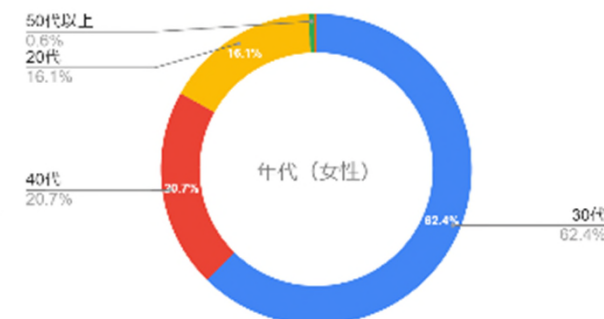
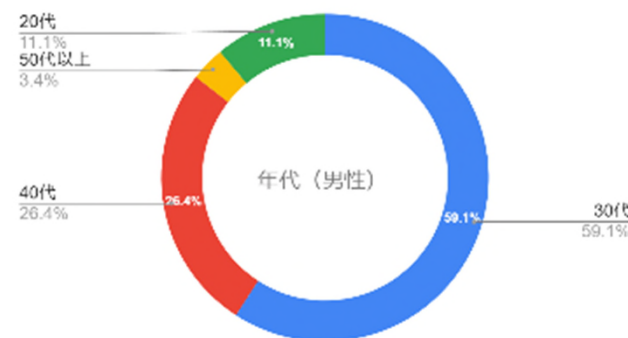
- ▶ 目的：男性の家事・育児参画に向けた意識を醸成するために、妊娠期からのかかわりを促しなかなか知る機会がない産前産後の女性の体調や精神面などについての知識を伝える冊子の制作。令和6年2月末から母子健康手帳配布時に同時配布予定です。
- ▶ 仕様 B5版 24ページ
 発行 岡崎市 NPO法人ファザーリング・ジャパン
 協力 子育て情報サイト パパしるべ
 監修：小崎 恭弘 氏（大阪教育大学教育学部教授・大阪教育大学附属天王寺小学校長・NPO法人ファザーリング・ジャパン顧問）
 林田 香織 氏（ワンダライフLLP代表・NPO法人ファザーリング・ジャパン理事）
 大久保 和俊 氏（産婦人科医 玉川レディースクリニック院長 医学博士）



【事業③岡崎市の子育て世帯を対象としたアンケートの実施】

【事業概要】

- ▶ 目的：岡崎市内で子育てをしている男女から、岡崎市の子育て環境や、令和5年度に特に注目した男性の家事・育児参画に関する率直な意見や感じていることを抽出すること。
また、届いた声は「おかざきこそだて会議2023」のシールアンケート形式のワークショップでも活用。
- ▶ 実施概要
 - 対象：岡崎市内で乳幼児の子育てをしている男女
岡崎市内の公立保育園や幼稚園を中心に案内を配布しリサーチ。
 - 実施期間：令和5年6月～8月（配布後に順次回答）
 - 実施形式：Googleフォームを利用したWEBアンケート形式
- ▶ 回答概要 総回答数 1124件（男性236 女性888）



【事業③岡崎市の子育て世帯を対象としたアンケートの実施】

男性の家事育児参画について現状と課題分析

妻から一定の評価を得ている岡崎市のパパたち！

「評価が高い」とは言い切れないまでも「高い」に値する分布が半数を超えていることから、世の中のイメージとは裏腹に、岡崎市の男性たちは妻（パートナー）から積極度について一定の評価を得ている傾向。一方で男性たち自身の自己評価は謙虚で、妻は「自己評価、高いんじゃない？」と思っているが、実はそうでもない。

総評すると、岡崎市のパパたちは「やってはいますけど、すごくやっているかというところまででもないかも」と思っている中で、パートナーたちからは「いやいや、それなりにやってると思いますよ」と思われるようです。

もちろん、もっと積極的にやってほしい！と思われる男性も。あくまで平均値ではありますが、概ね積極度は高い印象が感じられます。

家事・育児の手の出しにくさは、夫婦次第

男女ともに多かった意見が「夫婦でやり方が違うから」。

「妻などに怒られるから」は男女ともに3割前後と概ね原因のひとつとしての認識は近い。一方、「あまりやる必要はないと感じているから」が妻側にこそ3割以上いる一方で、夫側はわずか5%と少ない。手の出しにくさは夫婦それぞれ。夫婦で意識のすり合わせが必要と感じる。

男性の家事育児参画の壁は「仕事」「環境」そして「ママがいい」と男女ともに感じている

男性という性別によるやりにくさについては女性が6割程度が感じているものの男性自身は4割程度と少ない結果。女性からの温かい目線が感じられます。その他回答などからは、3つの課題が浮き彫りになっています。

「仕事」

収入面、職場の理解、男性の方が多忙になりやすいといったかねてから言われ続けている課題は今も変わっていないと男女ともに感じている様子。

「環境」

子育て施設などに女性が多いこと、男性トイレなどオムツ替え設備が少ないといった面などは男女双方から出た意見。一方、「育った環境や祖父母の影響」という声は女性では散見されたものの、男性からはほぼ見られませんでした。

「ママがいい」

「子どもがママといいと言う」「女性にしかできないことがある」といった声が、男性だけでなく、女性にも多く見られます。背景には過ごす時間が短いこともあり、仕事との関与も見逃せないところです。ただ、「ママがいいっていうからやらない」もしくは「やらせない」という選択は場当たり的な解決になりがちだとも感じられます。

※詳細な結果分析は別途報告書でご参照ください。

【事業③岡崎市の子育て世帯を対象としたアンケートの実施】

より多くの男性が家事や育児に関わるためにどんな事が必要だと思いますか？
意見、課題の分析

仕事、会社、企業、育休が多い

他の項目とも重複する部分ではありますが、やはり「どうすれば？」という意見を求めた時に最も多く意見が挙がっているのは、ここまで変わりません。

国の制度をはじめ、行政側への変化も求められていますが、同時にそれぞれの企業への変化、また、行政と企業の変化による社会の風潮の変化を求める声の多さを痛感する結果になっていると感じます。

今後は、企業に向けて男性の家事育児参画はもちろん、家庭運営への意識の醸成、また、子育て家庭だけではない従業員全般に向けた取り組みの重要性が感じられます。

教育、学ぶことへの要望

意見の中では男性自身の「当事者意識」をはじめ意識や知識への声も多くありました。特に注目すべきは3点。

- ①学校教育など早期の段階からの知識や価値観の醸成
- ②父親学級など、産前産後を中心とした男性への啓発
- ③祖父母や地域の方など異世代に向けた啓発

広い世代に包括的な学びの機会や啓発の機会があつてこそ、社会全体の風潮に変化を及ぼすことができるものと感じます。特に若年層に向けた啓発は地域の未来を左右する重要な観点のように感じます。

※詳細な結果分析は別途報告書でご参照ください。

【事業③岡崎市の子育て世帯を対象としたアンケートの実施】

ワードクラウドを用いたキーワード分析

アンケートに記入された言葉をAIで分析し、特徴的だったモノを抽出。ビジュアル化した画像です。
※ユーザーローカルAIテキストマイニングによる分析(<https://textmining.userlocal.jp/>)

より多くの男性が家事や育児に関わるためにどんな事が必要だと思いますか？【男性】



「育休」「当事者意識」が目立つ結果に

★「育休」⇒企業の意識・風土改革

★「当事者意識」⇒男性自身のさらなる意識改革や学びの機会の創出
この辺りが次年度以降に取り組むポイントになると考えられます。

より多くの男性が家事や育児に関わるためにどんな事が必要だと思いますか？【女性】



【事業④「パパしるべ」記事発信】

【パパしるべ概要】

- ▶ 「これからのパパの道しるべ」を目指すパパ向け子育て情報サイト。
(運営：合同会社パパしるべ 協力：NPO法人ファザーリング・ジャパン)
- ▶ 規模 累計210万PV 月間最大61万PV (2022年6月OPEN)

【更新実績】

- ① 去年の市民の声が早速反映された愛知県岡崎市。今年も一緒に子育て事業します
 - ② 岡崎市のパパたちに活躍の場を！「おかざきパパマイスター」スタート！
 - ③ 仲間はこんなにいる！「おかざきパパマイスター」養成講座の熱気がスゴイ！
 - ④ パパが魚に？馬に？斬新なアイデアがさく裂！「おかざきパパマイスター」養成講座レポート
 - ⑤ 大激論！パパたちが本当に求めているものとは？「おかざきパパマイスター」養成講座レポート
 - ⑥ パパの活躍に子どもたちが大興奮！「おかざきこそだて会議2023」レポート
- ※養成講座第4回、認定式、市長報告を含めた第7弾記事も近日公開予定です。

- ▶ 総PV数：18,968 平均PV：3,161 (記事6本公開時点)

【事業⑤おかざきこそだて会議2023】

【イベント概要】

- ▶ イベントタイトル：みんなの声でつくる！おかざきこそだて会議2023
- ▶ 日時 2023年11月18日（土）10:00~13:00
- ▶ 実施場所 図書館交流プラザ りぶら （岡崎市康生通西4丁目71番地）
- ▶ 運営 岡崎市役所こども育成課 NPO法人ファザーリング・ジャパン
- ▶ 協力 岡崎市内の子育て支援団体など 16団体
- ▶ 協賛 マルサンアイ株式会社



【イベント実施内容①】

▶ ワークショップ

子育てアンケートに届いたコメントを貼りだし、来場者には共感するモノにシールを貼ってもらったり、意見を付箋で追加してもらいました。また父子手帳のパイロット版も掲示しました。



▶ ステージ

子育て支援団体の協力のもと、来場した親子向けのステージを披露しました。



▶ 会議室・和室・創作室

子育て支援団体などの協力のもと、来場者向けに読み聞かせや工作を体験するブースを出展。



▶ お堀通り

子育て支援団体などの協力のもと、来場者向けにバランスボールなどを体験するブースや活動展示ブースなどを出展しました。



【イベント実施内容②】

▶ トークセッション

昨年に続き、中根康浩岡崎市長とNPO法人ファザーリング・ジャパン杉山による岡崎市の子育てやイベントに集まった声に関するトークセッションを実施。また「おかざきパパマイスター」養成講座で講師を務めた保育芸人のポリスじろうさんによるトークセッションも行われました。



▶ パパのダンボールパーク

今年度はパパマイスター養成講座受講生有志による「パパのダンボールパーク」も実施し、好評を博しました。

またステージでは餅投げを実施し、子どもたちを盛り上げました。



【イベント実施内容③】

▶ 来場者状況

シールラリーに付属した来場者アンケートの数は202。これは子どもにのみ配られたため、保護者の数を見込むと総来場者はおよそ600人と推定されます。（昨年度推計420人 昨年比143%）

おかざき子育て会議 アンケート集計

満足度	①ステージイベントやブースの満足度	比率(%)
5	114	56.4
4	62	30.7
3	26	12.9
2	0	0.0
1	0	0.0
総計	202	100.0

満足度	②参加型ワークショップ（ホール内）の満足度	比率(%)
5	110	55.0
4	55	27.5
3	35	17.5
2	0	0.0
1	0	0.0
総計	200	100.0

期待度	③子育て環境改善に対する行政への満足度	比率(%)
5	91	45.0
4	55	27.2
3	43	21.3
2	11	5.4
1	2	1.0
総計	202	100.0

希望度	④このイベントの来年度開催について	比率(%)
5	154	76.6
4	37	18.4
3	10	5.0
2	0	0.0
1	0	0.0
総計	201	100.0



▶ アンケート結果

イベント内容に関する満足度は8割以上が高い数値で回答。また、行政への期待度も4以上が7割を超えました。イベントの来年度開催も9割以上が望んでいました。

【イベントで書き込まれた意見について】

ホールで行ったワークショップでは2023年6～8月に実施したアンケートから抜粋し掲示された約80のコメントに、共感シールと意見を自由に書き込んでもらいました。

共感シールが多く貼られたコメントや自由記述の声も含めて、どのような声が多かったのか、傾向をまとめました。

* 貼られたシールの数は408枚。本当に多くの方に協力いただきました。

今回は男性の家事育児参画がテーマだったこともあり、

男性の意見へのシールが6割と多数を占めたのは特筆すべきポイントだと思います。

* 「男性が家事をやりにくい理由」として、男女ともに見られたのは

「仕事の忙しさや職場の風潮」や**「男性トイレにオムツ替え台がないこと」**、

そして**「家庭や男性自身の意識改革」**男性のやる気や価値観への言及は男女両方みられました。

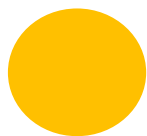
* 「より男性が関わるために何が必要か？」については、男女の1位が**「育休促進」**や

「残業を減らす」、といった「仕事・職場」や「制度面」への意見となりました。

ついで**「妻への思いやり」****「（男性の）やる気」**への言及も多く見られ

さらに**「父親になる前の教育」**への共感が多かったことは印象的でした。

※次ページ以降に詳細があります。赤枠の数字は共感シールの数です。



【イベントで書き込まれた意見① 抜粋】

▶ 【男性が家事育児をやりにくい理由は？】 <女性>

【共感シールが多かったコメントランキング TOP5】

- 第1位 母親と同じレベルで 仕事をセーブすることが難しいから 11
 <30代女性 子ども1人> 【企業の意識や制度改革】
- 第2位 めんどうだから。母親がやっているなら手を出さなくていいだろうと思っている 7
 <40代女性 子ども3人> 【家庭や個人の意識改革】
- 第3位 増税で手取りが増えない。残業で稼ぐしかない。帰りが遅い。
 夫は子どもと関わりたいと思ってるが将来手取りが減るかわからないので 5
 稼げるだけ稼ぐしかない。
 <20代女性 子ども1人> 【給与・働き方の改善】
- 第4位 女子トイレにしか子どものオムツを替える台がないことや、男性トイレに台があったとしても 3
 オムツを替えられるか不安があるため
 <30代女性 子ども1人> 【教育・行政サポート拡充（環境改善）】
- 第4位（同率） 職場、地域の子育て施設、幼稚園、保育園などで家事＝女性という価値観が存在し、 3
 男性ではなく女性に依頼がいくから。
 <30代女性 子ども2人> 【社会風土の改善】
- 第4位（同率） 妻がやってくれる、妻に頼まれたらやればいいと思ってるから。 3
 <30代女性 子ども1人> 【家庭や個人の意識改革】



【イベントで書き込まれた意見② 抜粋】

▶ 【男性が家事育児をやりにくい理由は？】 <男性>

【共感シールが多かったコメントランキング TOP5】

- 第1位 妻のやり方でやらないともめるので 13
<40代男性 子ども3人> 【家庭や個人の意識改革】
- 第1位 (同率) フルタイム (残業も常態化) との両立が難しい 13 11
<40代男性 子ども2人> 【給与・働き方の改善】
- 第3位 公共施設のトイレなどで、女性用にしかベビーベッドがついていないなどの事例が頻発しているので。
<30代男性 子ども2人> 【教育・行政サポート拡充 (環境改善) 】
⇒コメント：立ってオムツ替えできるスペースが欲しい
- 第4位 子どもの熱や不調による早引き、突発休みへの職場の理解がない。 9
有給取得の理由が保育園のお休み、行事などでの理由をあげるといい反応をされない。
<30代男性 子ども2人> 【企業の意識や制度改革】
- 第4位 (同率) 子育てに男女間の差はないと思う。 9
ただ、家事に関しては女性のこだわりが多く、やっても感謝より否定の言葉多くやる気にならない
<30代男性 子ども2人> 【家庭や個人の意識改革】

【イベントで書き込まれた意見③－1 抜粋】

▶ 【より多くの男性が家事や育児に関わるためにどんな事が必要？】 <女性>

【共感シールが多かったコメントランキング TOP5】

- 第1位 子どものいる家庭の男性の残業が減ってほしい。
物理的に家にいる時間が少なければ、家事育児にふれることも減ると思うので。
女性は子ができると、職場の対応は良くも悪くも変わるが、
男性に対しても変わってほしい。また、そうなった時の職場に仕事のしわ寄せが
いかないような人材確保も各企業積極的に行ってほしい。

<20代女性 子ども1人> 【企業の意識や制度改革】

コメント：マタニティ体験が仕事をしながらできるように 企業に貸し出しして、
妊婦が仕事をするということはどんなことなのか？

男性職員だけでなく出産していない人みんなに 体験してほしい

コメント：市内の中小企業ほど制度が進んでない！ ぜひ社員を集めたセミナーなどで話してほしい。
また会社で男性従業員に向けて啓蒙してほしい

21

- 第2位 調べる手段はいくらでもあるのだから、わからないことは自分の意思で調べ、
積極的に行動することや、産後の体がボロボロ、メンタルもボロボロの状態を
支えてあげる、という思いやりが必要。
家事育児を手伝うというスタンスではなく、
父、母になるのは同じタイミングだから
一緒に成長していこうと思ってほしい

<40代女性 子ども3人> 【家庭や個人の意識改革】

15

【イベントで書き込まれた意見③-2 抜粋】

▶ 【より多くの男性が家事や育児に関わるためにどんな事が必要？】 <女性>

【共感シールが多かったコメントランキング TOP5】

- 第3位 ショッピングモール等の授乳室は女性しか入れないので、10
男子トイレにもおむつ替えの出来る個室を設置したり、
父親がおむつ替えやミルクをあげる為に使える施設を設置する為の助成等援助をする
<30代女性 子ども3人> 【社会風土の改善】
- 第3位（同率） 夫婦で話しをすることが大事だと思うし、自分で譲れないことは10
自分でやることが大切で「やってあげてるのに」って思ってお互いやっていると
不満があるので、やれる時に「これやっておくね」が当たり前になるといいですね。
<30代女性 子ども4人> 【家庭や個人の意識改革】
- 第5位 最終責任を持つのは自分でもあるということを感じてほしい。会社などで男性が休んでも9
悪口など言わないでほしい。イクメンだとか誉めしないで、逆に当たり前だと伝えてほしい。
<40代女性 子ども1人> 【社会風土の改善】
- 第5位（同率） 小中高校教育から家事への参画を促す教育をすべき9
<30代女性 子ども1人> 【教育・行政サポート制度（環境改善）】



【イベントで書き込まれた意見④ 抜粋】

▶ 【より多くの男性が家事や育児に関わるためにどんな事が必要？】 <男性>

【共感シールが多かったコメントランキング TOP5】

- **第1位 男性が育休取得しやすい環境作り。** 24
育休期間の金銭面を100%補助したり、延ばしたりすること。
<30代男性 子ども2人> 【企業の意識や制度改革】
コメント：会社、部署、チーム、上司など、取れる取れない（言いづらい）などがまちまち
- **第2位 妻を思いやる気持ち** 23
<40代男性 子ども1人> 【家庭や個人の意識改革】
- **第3位 子どもが小さい時は限りある時間という意識。** 19
<40代男性 子ども1人> 【家庭や個人の意識改革】
- **第4位 労働時間を減らす、仕事をセーブしても生活が成り立つ賃金水準の達成、あるいは公的支援。** 13
保育所や公立学校の時間延長で長時間労働の男性でも間に合うようにする。
今はお迎えの時間に縛られ、女性がキャリアを諦めているのでは。
結果、女性の家事育児へのコミット比率が高まる。
<30代男性 子ども2人> 【給与・働き方の改善】
- **第5位 本人のやる気。これにつきる。** 12
<40代男性 子ども2人> 【家庭や個人の意識改革】

【成果を感じられたところ】

- ★おかざきパパマイスター養成講座は定員を大幅に上回る応募が来ました。これは、市内の子育て層に潜在的なニーズがあったことを証明するもので、男性が子育てに関わる、学ぶ機会を求めていることが明らかになったと考えられます。
- ★おかざきパパマイスターには、講座の他に「おかざきこそだて会議2023」でのブース運営や父子手帳に載せるコメントに協力してもらうなど、事業全体に繋がりを持つ展開ができました。これを実現できたことは、行政側が丁寧に調整をしてくれたことが大きいと感じています。
- ★事前アンケート、及びイベントの集客について昨年を超える数が集まったことは、事業の可能性を感じられるポイントだといえると思います。
- ★市長にもイベントに加え、マイスター認定式などにたびたび足を運んでいただき感謝申し上げます。オフィシャルな取り組みであることのアピールに繋がり、市が力を入れていることが伝わったと思います。

【次年度以降に向けた課題】

- ★アンケートやイベントに届く声の中に「仕事」「職場」に向けたものが多い中、今年度は企業などに向けた取り組みはかなり限定的でした。次年度は市民だけでなく、岡崎市の企業の意識改革に繋がる取り組みも必要になると感じています。
- ★おかざきパパマイスターになった人たちには多くの学びや知識を伝えることができた一方で、マイスター同士がよりつながるための施策も、今後の広がりや風土醸成のために大切だと考えられます。講座受講生がつながるための施策とともに、マイスターになった人たちが継続的に関われる施策が必要だと思っています。
- ★国が子育て施策の拡充を進めているため、父子手帳は可能な限り頻繁に内容のアップデートをする必要があると感じられます。また、現状はプレパパと現役パパに向けた施策となりますが、中高生や大学生といった段階でパパになること、ママになることへの意識を持てる取り組みも今後の課題だと考えられます。